

平成25年 安全について社長の所信表明

平成25年の重点取り組み課題は、

- ①『全員参加で安全活動を推進し、工程及び製品の品質向上に努めよう』
- ②『徹底した目標管理のもとで、省エネ、省力、省資源運動を実施し、コスト競争に勝ち抜こう』
- ③『他社に負けない燃費性能の良い船を提供し、年間建造20万総トンを達成しよう』
- ④『人材育成と組織づくりを強化し、会社方針を達成しよう』

となっています。

この重点取り組み課題について、それぞれ安全面から見た考え方を述べさせていただきます。

①一人ひとりが単に安全活動をするだけでなく、班の中で、チームの中で、グループの中で協力し合い、さらに周りの各部署とも連携を取りながらお客様から受注した大切な船を、安全な作業で品質の良いものに仕上げ、約束の納期に引き渡すことに全力を注いで下さい。

また、挨拶を基本にコミュニケーションを図ることで、報告も連絡もスムーズに流れ、なんでも相談が出来る良い人間関係を構築する。問題点や目標を共有し、確実に解決出来る体制づくりの第一歩として、まずは毎朝の挨拶では自分の方から声を出しましょう。

②災害だけでなく、過去に経験した不具合工事を決して忘れることなく繰り返し反省し、工事の重要なチェックポイントを作業手順書に載せ実施を徹底し、後戻り工事を防ぎ、安全で効率の良い作業を行いましょ。

③お客様の立場に立ち、お客さまが望んでいる(安全性を含む)機能、性能を装備した優れた船(商品)を提供することより、年間の建造目標を達成しましょう。

④自己研鑽、教育の時間をつくり、仕事のプロフェッショナルになっていただきたい。他社の進んだ点を学び、組織に欠かせない人間になっていただきたい。また、そのように指導して行きます。

組織づくりでは、人間関係、助け合い、各部署間の連携が重要になってきます。バラバラに仕事をしていては、作業の流れは出来ません。1隻の船(商品)を造るには全体を見通し、各部署が何時、どこで、何を、どれだけやればいいのかを把握して実行することが大事です。そのような連携が取れる組織を作って行きましょう。

草の根セーフティー活動は一定の成果を上げていると思いますが活動内容にはまだムラがあり、ピシッと確実に実行されているとは言えません。安全、工程、品質と密接に係わる活動です。さらに深化させゼロ災職場を目指しましょう。

あわせて、現場作業での危険要因をリスクアセスメントで軽減していくことも忘れてはなりません。

一歩一歩着実に階段を昇って行きましょう。

平成25年1月4日

南日本造船株式会社
社長 池邊 隆太郎